

| コード | 名 称 | 区分 | コード | 名 称 |
|-------------|-------------------------|-------|-------|---------------------------|
| 事業名 | 594 林業振興経費 | 会計 | 01 | 一般会計 |
| | | 款 | 06 | 農林業費 |
| | | 項 | 02 | 林業費 |
| 基本施策 | 42 持続的で個性的な農林業を実践する | 目 | 02 | 林業振興費 |
| | | 細目 | 320 | 林業振興経費 |
| | | 細々目 | 51 | 林業振興経費 |
| 行基大綱の重点事項番号 | | | | |
| 担当部署 | コード 191200 名 称 農林振興課 | 担当者氏名 | 木澤 健司 | 連絡先 43 - 2301 (内線) 332 |

事務事業の概要(Plan)

| | | |
|-----------|--|-------|
| 対象(誰を、何を) | 間伐を実施する森林所有者 | ※対象件数 |
| 成果(どうする) | 間伐実施が行われることにより、森林の多面的機能が回復する。林地管理経費が軽減される。 | |
| 根拠法令・要綱等 | 伊賀市緊急間伐推進事業補助金交付要綱 | |
| 開始年度 | 平成 14 年度 | 関連事業 |
| 終了年度 | 平成 年度 | |
| H22 事業内容 | 緊急間伐推進事業により、間伐実施を実施した森林所有者等に補助金を支出した。林令が16～概ね45年生のスギまたはヒノキの人工林 間伐面積概ね1000㎡以上実施 成立本数の概ね20%以上の間伐 過去5年以内に間伐補助を受けてないこと | |
| 社会情勢の変化等 | 補助金額(1本当たり) | |
| | 21年度 22年度 23年度 | |
| | 林令16～25年生 75円 66円 80円 | |
| | 26～35年生 91円 80円 98円 | |
| | 36～概ね45年生 168円 151円 185円 | |

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

| | |
|--------------|----|
| 1 建設用地 | |
| 2 建設面積(延床面積) | |
| 3 規模・構造 | |
| 4 総事業費 | 千円 |

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

| | |
|-----------|----|
| 1 運営主体 | |
| 委託先 | |
| 2 配置人員 | 人 |
| 3 年間運営費 | 千円 |
| 4 市内の類似施設 | |

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

| 活動指標 | 指標名 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|------|------|----|-------------------------|------------------------|--------|--------|
| | | | H21 | H22 | H23 | H24 |
| 補助件数 | 補助件数 | 件 | 目標 180 実績 162 | 目標 170 実績 168 | 170 | 170 |
| | 補助本数 | 本 | 目標 100,000 実績 71,671 | 目標 80,000 実績 68,146 | 80,000 | 80,000 |

| 成果指標 | 指標名 | 指標設定の考え方 | 単位 | 実績値 | | 目標値 | |
|---------------------|---------------------|---|----|-------------------|-------------------|-----|-----|
| | | | | H21 | H22 | H23 | H24 |
| 補助件数摘要比率(補助件数/申請件数) | 補助件数摘要比率(補助件数/申請件数) | 当助成申請件数を分母とし、助成の対象件数を分子とする対象者の摘要比率を指標とする。 | % | 目標 100 実績 94.2 | 目標 100 実績 89.9 | 100 | 100 |
| | 補助本数摘要比率(補助本数/申請本数) | 当助成申請本数を分母とし、助成の対象本数を分子とする対象者の摘要比率を指標とする。 | % | 目標 100 実績 56.4 | 目標 100 実績 56.2 | 100 | 100 |

| 投入コスト | H21 決算 | | H22 決算 | | H23 当初予算 | | H24 当初要求 | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|----------|--------|----------|-------|
| | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) | (千円) |
| 直接事業費計(A) | | | | | | | | |
| Aの財源内訳 | 15,091 | 9,572 | | | 11,400 | | 12,000 | |
| 国庫支出金 | | 0 | | | 5,000 | | 5,000 | |
| 県支出金 | | | | | | | | |
| 地方債 | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | |
| 一般財源 | | 9,572 | | 6,400 | | 7,000 | | |
| 事業投入人件費(B) | 0.2人 | 1,440 | 0.2人 | 1,440 | 0.2人 | 1,440 | 0.2人 | 1,440 |
| フルコスト(A)+(B) | 16,531 | 11,012 | | 12,840 | | 13,440 | | |

事務事業の評価(Check)

| 判断の基準(該当項目に○をつけてください) | | 備考欄(特記事項) |
|---|---|---|
| 必要性 | 法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 | 国は京都議定書で定められたCO2削減目標を達成するため、森林吸収目標を定め、間伐等の実施を促進している。このため、市としても伊賀市特定間伐等促進計画を策定して森林整備を進めることとしている。 |
| | 個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 | |
| | 特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 | |
| | 事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 | |
| | 市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 | |
| | 市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 | |
| | 国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 | |
| | 市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 | |
| | 民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補充・先導する事業 | |
| | 受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 | |
| 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 | | |
| 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 | | |
| 京都議定書で定められたCO2削減目標を達成するため、国として間伐の実施を促進している。 | | |
| 財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業 | | |
| 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 | | |

| | | |
|-----|---|---------------------|
| 有効性 | 事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 | ○ |
| | 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 | ○ |
| | サービス水準や対象を見直す余地がある。 | |
| 達成度 | 当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 | 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 |
| | 予算の繰越の有無 無 | |
| | 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 | 森林所有者への事業啓発を進める |

| | | |
|-----|--|---|
| 効率性 | 他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 | |
| | 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 | |
| | 【事業名】 | |
| | 受益者負担を求めることができる事業である。 | |
| | 全体コストにおける負担構成は適正である。 | ○ |
| | コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。 | |

| | |
|----------|---|
| 改善策 | 昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況 |
| | 間伐実施への着手を早め、間伐材搬出など多様な間伐実施にも対応できるようにすることで、事業への取り組みが増えるよう、申請の締め切りを従来の6月末から5月末に1ヶ月早めた。(H22年度から) |
| 昨年度の取組状況 | 【状況】 計画のとおり進んでいる |
| | 【詳細】 |
| | 熱エネルギーへの利用の検討をしているが、木材の搬出コスト等の関係で実施は難しい。 |

今後の方向性(Action)

| | |
|------------------------------|--|
| 担当課長氏名 | 服部 智秀 |
| 事業の方向性 | 【方向性】 現状維持 |
| | 【理由】 |
| | 市内の森林は、木材価格の低迷などから手入れがされず放置された森林が多い状況となっている。しかし、当該事業においては、毎年多くの申請があり、森林整備に対する関心は高まっていると考えられる。このことから、市内の森林整備の促進を促す必要があることから、現状維持とした。 |
| 現時点における課題、その他 | ・森林の荒廃の防止 |
| 課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする) | ・林業従事者の後継者対策、木材搬出のコスト削減 伊賀市の森林面積は総面積の約6割を占めておりますが、木材価格の低迷により大半が手入れがされておらず、山林の荒廃が進み、災害発生危険度が向上する状況となっています。この状況を改善していくためには、毎年コンスタントに事業を実施し、森林整備を進めていく必要があります。 |